



医療法人社団 生新会 木場公園クリニック



ご予約は
インターネットで
お願いします

胎児精密超音波検査では胎児の形態異常や構造異常の評価、胎盤臍帯の評価を超音波を使って詳細に行います。これまで胎児の一般的な超音波スクリーニング検査は妊娠 20 週前後で評価するのが best と考えられてきましたが、超音波診断装置の技術の向上と診断技術の改良により妊娠の早い段階で胎児の構造を観察することが可能となりました。

初期超音波スクリーニング検査では妊娠初期（妊娠 11-13 週）にわかる胎児の大きな形態や構造の異常、胎盤や臍帯の異常を評価します。NIPT（新型出生前検査）や PGT-A（着床前胚染色体異数性検査）などでは胎児の構造異常は評価できないので、染色体異常の評価を行った患者様にも超音波での精密検査はお勧めいたします。

なお初期超音波スクリーニングの際に胎児の首の後ろの浮腫（NT: nuchal translucency）の計測も行います。この NT は妊娠初期の全ての胎児に存在するスペースではありますが、厚みの程度によっては染色体の病気や心臓の病気と関連するリスクが上昇すると言われています。

妊娠初期に胎児の情報の多くを得ることは可能ですが、発育とともに顕在化してくる病気もあるので、妊娠中期以降に再評価を行うことをお勧めしています。

毎週火曜 13:30 ~ 17:00（1 枠 30 分）

妊娠 12 ~ 13 週が最適な時期です

初期精密超音波検査（妊娠 11 ~ 13 週）

41,800 円（税込）

初期血清マーカー検査（free- β hCG、PAPP-A）

31,900 円（税込）

中期精密超音波検査（妊娠 18 週以降）

44,000 円（税込）

中期母体血清マーカー検査（クアトロテスト）

29,700 円（税込）

初期超音波所見によるリスク計算

*41,800 + 11,000 円（税込）

* のものは木場公園クリニック卒業生は半額になります



高性能な超音波機器を使用し、順天堂大学産婦人科より
山本 祐華 医師が担当します